

## 医師の異動（3月）

医師の異動はありません。

## 呼吸ケアサポートについて

臨床工学技術科 呼吸ケアサポートチーム（RST） 草野 信悟

昨年、「地域医療支援病院」の指定を受け、地域の医療・介護関連機関との連携・協力をより一層強化していきます。その一環として「地域呼吸支援事業」を行うことにいたしました。在宅療養は病院内の恵まれた医療資源での管理と違い、限られた医療資源の中で適切な呼吸管理を行わなければならない環境で、いかに安全で適切な管理が行えるかが重要です。

当然、従来通り患者様の状態が悪くなったらご紹介いただくのですが、重症化する前の予防的評価、例えばCOPD、結核後遺症および後側弯症などの拘束性胸郭疾患、神経筋疾患は夜間、特にREM睡眠時に呼吸補助筋の筋活動低下あるいは横隔膜活動が増加しないことによる睡眠時低換気により、徐々に高二酸化炭素血症に陥る可能性があります。覚醒したら元に戻りますが、これが続くと徐々に戻らなくなっていきます。

そこで当院が新たに導入した、経皮的CO<sub>2</sub>モニターを用いて、睡眠時にSpO<sub>2</sub>とCO<sub>2</sub>を連続的に計測して、睡眠呼吸障害が起こっているか評価します。これは睡眠時に検査をする必要があるため3日から1週間程度入院していただきます。

また、排痰訓練や呼吸リハビリテーションなど当院で行っていることをできるだけ在宅でも実現できるように指導もさせていただきます。このように呼吸に関するご相談や人工呼吸器の設定に関することなど何でも対応致します。さらに、呼吸に関する最新情報やエビデンスを訪問看護ステーションや介護福祉施設に出張し研修させていただいており、非常に好評を得ております。

当院の呼吸ケアサポートチーム（RST）が全力でサポート致しますのでお気軽にご相談してください。



## 地域医療従事者研修会のご案内

### ■がん看護研修

日時：平成31年3月16日（土）9：00～12：00  
会場：市立長浜病院 講堂  
テーマ：移行期ケア（トランジショナル・ケア）  
講師：彦根市立病院と市立長浜病院の専門看護師・認定看護師  
問合せ先：がん対策推進室 電話 0749-68-2300（代表）

### ■第305回開放型病床生涯教育研修会

日時：平成31年4月4日（木）17：30～19：00  
会場：市立長浜病院 講堂  
テーマ：口内炎について  
講師：市立長浜病院  
歯科・歯科口腔外科責任部長 近藤 定彦  
問合せ：地域医療連携室 電話 0749-68-2300（代表）

## お知らせ

### 病棟の改修工事について

当院は、平成31年4月から2年かけて病棟の改修工事を行います。工事に伴い、病棟の編成が変更になるなどご迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

### びわ湖あさがおネットの閲覧について

システム変更後、地域患者一覧からの閲覧ができにくい状況が続いております。

ご迷惑をおかけして申し訳ありませんが、施設一覧から当院（市立長浜病院）を選択していただき、該当患者さまの選択をして閲覧いただくようお願いいたします。

### ゴールデンウィーク（10連休）の診療について

4月30日（火）は開院いたします。なお、外来診療において一部休診する診療科もあります。詳しくは、4月号にてご案内いたします。

### 睡眠時無呼吸症候群外来について

3月、4月の2ヶ月間、角谷医師が不在のため、予約診療は受付しておりません。ご迷惑をおかけいたしますがよろしくお願いいたします。

### ■編集後記 ■

今年度は公私ともに変化の多い一年でした。来年度は安定した年になりますように。



Pink-Bu

## 市立長浜病院 地域医療連携だより

理念  
地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、地域完結型の医療を進めます。



平成31年3月1日号 No.171

救急告示病院  
日本医療機能評価機構認定病院  
地域がん診療連携拠点病院  
厚生労働省臨床研修指定病院  
周産期協力病院  
地域医療支援病院

市立長浜病院  
患者総合支援センター  
地域医療連携室  
〒526-8580  
長浜市大茂亥町313番地  
TEL:0749-65-2720  
FAX:0749-65-2730  
http://www.nagahama-hp.jp/



謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。3月の外来診療担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

## 市立長浜病院と長浜赤十字病院の消化器検査同意書統一に向けて

消化器内科責任部長 今枝 広丞



長浜・米原医療圏の方々には、平素よりたいへん御世話になっております。平成30年10月1日より長浜病院消化器内科責任部長として赴任させていただき、はや5ヶ月が経過いたしました。皆様のおかげをもちまして、消化器内科は多くの患者様にご利用いただく地域の中核病院として軌道に乗り出すことができました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、平成31年4月1日からはさらに3名の常勤消化器内科医が追加赴任することとなっております。4月からは夜間休日の消化器内科の救急体制も整い、利便性・質のより高い診療を目指していく所存です。地域の医療関係の方々には、より一層のご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

現在、消化器内科領域における病診連携においては、ひとつひとつ見直しをさせていただき、しばらく中断しておりました診療体制を立て直しているところであります。過日、内視鏡関連の同意書につき、地域の方よりご指摘をいただきました。「抗血栓薬の休薬に関するルールが長浜病院と長浜赤十字病院では異なるため、患者様への説明が複雑になっている。」というものでした。これは極めて妥当なご意見であると考え、両病院消化器内科部長が両病院長の同席のもと会合を開き、病診連携でご依頼いただく内視鏡検査の同意書を統一することいたしました。

すでにご存じの通り、2017年に「抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン」が改訂され、DOACやワルファリンを含む抗凝固剤や抗血小板剤の内視鏡時の休薬ガイドラインが制定されました。これにつきましては当院の内視鏡検査における同意・説明書がそのガイドラインを反映しておらず、早急に改定する必要があると考えました。2017年ガイドラインの要旨は別紙をご覧ください。



内視鏡室



# 患者総合支援センター 平成30年度活動報告

患者総合支援センターは、開設して2年目となりました。患者さんに対する医療・福祉支援は当院だけでは完結できません。

当センターでは、地域医療機関と連携し、外来受診時から入院および退院後までを見据え地域の中で安心して在宅療養が送っていただけるよう各グループが連携し支援を行っております。

## 地域医療連携グループ

### 地域医療連携グループ 北村 美幸

平成30年12月末時点での紹介件数は5,056件と多くの患者様のご紹介いただきありがとうございます。

特に、今年度は開業医の先生がたのご協力のおかげで逆紹介・併診をお願いする患者数がより増加し、逆紹介率が95%となっております。

今年度より地域包括ケア病床において、開業医の先生からのご依頼によるレスパイト入院システムを開始いたしました。現在20件程度のご依頼をいただき、ご利用いただいております。緊急レスパイトに関しては、病床数の問題もあり早急な対応が難しいこともありますが、1~2週間程度の猶予をいただきますとご希望に添えることができやすい状況です。今後ともご利用のほどお願いします。

反対に、開放入院のご利用は減少をしており、16件程度でした。しかし開業医の先生がたのご訪問をうけることでの患者様の満足度も高いことを感じております。

## 入院支援グループ

### 入院支援グループ 徳田 敏子

入院を予定している患者が入院生活や入院後にどのような治療経過を経るのかをイメージでき、安心して入院医療を受けられるように、入院前の留意点や入院中に行われる治療の説明、入院生活に関するオリエンテーションを手術室・薬剤部・医事課などの他部門と連携し支援しています。

手術目的の予定入院患者以外にも、腎生検や心臓カテーテルなどの検査目的の予定入院患者にも支援を拡大し、200件/月前後の入院説明を実施しています。

入院や検査・治療に対する不安や疑問点、入院に対するご意向などを確認し、各専門分野からの説明が必要な場合は担当者が相談室に向き、ワンストップ形式で対応しています。また、入院前から外来や病棟と情報共有し、入院早期から退院後までの切れ目のない、患者の生活を分断しない医療を支援することを心がけています。

## 退院支援グループ

### 退院支援グループ 尾崎 幸子

平成30年度は1月末日まで約600名の患者さんに退院支援看護師、社会福祉士が介入し在宅や施設など身体的、社会的事情に応じた療養場所への退院をお手伝いさせていただきました。住み慣れた自宅や施設での看取りへの支援は昨年度の約半数(16名)にとどまっていますが、

ACP(アドバンスケアプランニング)とまではいかないものの、家族との話し合いのなかで、入院中の患者さん意志はどこにあるのか、ということについて考えるプロセスを大事にするように心がけております。厚生労働省は昨年末ACPの愛称を「人生会議」と決定しました。地域支援病院として、かかりつけ医の皆様と今後も連携し超高齢社会の地域包括、地域完結の医療を実現してゆきたいと思っております。次年度もよろしくお願ひします。

## 患者相談窓口グループ

### 患者相談窓口グループ 土川 陽子

患者相談窓口は、午前は玄関ホールで、午後は患者総合支援センターで相談業務を行っております。

平成31年1月末までの患者相談件数は、3,100件と毎月300件前後の相談の対応をしています。その内訳としては、受診相談が75%と多く、次いで案内や看護相談、医療費についての相談となっています。相談の時間帯も85%が午前中と集中しております。患者総合支援センターの入り口機能として、看護師を配置して各種相談を受けています。外来や医事課や退院調整など専門的な内容については、各専門の職員が対応するよう連携しています。

患者相談窓口グループでは毎週カンファレンスを開催し相談対応の室の向上に努めており、患者支援に係る取り組みの評価や統一した対応ができるようしています。また、病院へのお問い合わせのメールについても対応しております。

## 訪問看護ステーション

### 訪問看護ステーション 湧口 朋子

当ステーションは「地域住民が住み慣れた場所で、人生最期の時期まで幸せに暮らせるために、どのような対象の方々でも支えていく」事を理念に掲げ、看護師10名、理学療法士1名が日々在宅に訪問し、市民の多様なニーズに対応できる看護サービスを提供しています。

当ステーションは「地域住民が住み慣れた場所で、人生最期の時期まで幸せに暮らせるために、どのような対象の方々でも支えていく」事を理念に掲げ、看護師10名、理学療法士1名が日々在宅に訪問し、市民の多様なニーズに対応できる看護サービスを提供しています。

がん、呼吸器疾患、循環器疾患の利用者様が年々増えています。院内連携の強みを生かし、様々な専門職にコンサルテーションし、必要時同行訪問を行い、医療依存度の高い方のケア、在宅緩和ケア、在宅看取りまで、その人らしく生きることを支えています。

今年度は、利用者様に満足度調査を行いました。利用者・家族様が必要としているサービスを十分に提供できているか、ニーズに応えられているか、接遇・マナーに問題はないか分析し、業務改善を図り、サービスの質を絶えず高めていきます。地域の医療機関・介護関係と連携し、訪問看護が必要な方々に安心と笑顔を届け、選ばれるステーションを目指します。

## 第303回開放型病床生涯教育研修会を開催しました

今回は第26回湖北緩和ケア・在宅医療研究会と合同で開催しました。講師は当院 金武 李佳臨床心理士で、テーマは「心の発達とコミュニケーション」と題しご講演いただきました。

普段患者さんと接する機会が多いため、心理学やコミュニケーション方法に興味を持たれている方が多く、73名とたくさんの方に参加していただきました。

この研修で学んだと事を、実践で活かしていただければと思います。



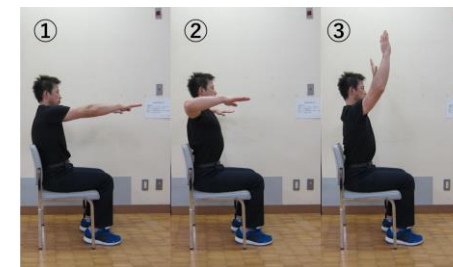
## 健康になるためのリハビリ体操

### リハビリテーション技術科 理学療法士 梶谷友基

『第2回 肩甲骨、肩関節を柔らかくする体操』

肩甲骨や肩関節が硬くなると、肩こりや肩関節痛の原因になります。これらを防止するためには、肩甲骨や肩関節周りの筋肉の柔軟性を保つ事が大切です。そこで以下の運動を行ってみましょう。

#### 1. 肩甲骨の動きを良くする体操



- ①椅子に座り背中を丸めすぎないように両手を肩の高さまで上げ、前に突き出し10秒保持します。
- ②次に軽くおへそを引っ込めて、腰が反り過ぎないように注意し、両肘を後ろに引き10秒保持します。
- ③さらに両肘を肩より前に戻し、手のひらが前を向くようにして10秒保持します。これを3回行いましょう。

#### 2. 肩関節の動きを良くする体操



- 肘を直角に曲げ、腕を左右に動かしましょう。肩に力が入り過ぎないように、力まず痛みのない範囲で20回行いましょう。